

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1 年全コース	社会福祉★	竹中 直	
サブタイトル	社会福祉の基礎的知識を身につける	単 位 数	2
授業形態	講義		
開講時期	前期（保育総合、保育士）、後期（保育アフタヌーン）	出席要件	4／5 以上
到 達 目 標			
1. 保育学生として身につけなければならない社会福祉全般に関わる基礎的知識の獲得。 「貧困」「高齢者福祉」、「障害児・者福祉」、「地域福祉」、「相談援助」等の領域について学ぶ。 2. 「社会福祉とは何か」という問いに答えられる自分なりの社会福祉観の形成。 社会福祉の定義、対象、歴史、組織等から社会福祉の基本的視座を身につける。あわせて社会福祉の動向と課題について考える力を養う。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、とくに保育士資格取得に関する基本的教科のひとつとして「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」を目指す。 保育士資格に関連する法的体系、保育士資格取得後に勤務可能な保育所、各種児童福祉施設の実態を学ぶ。			
授 業 の 方 法			
講義形式の授業形態を基本とする。授業においては理解度を確認するための問いかけをしている。また主体的な参加を行うため、アクティブ・ラーニングの手法をおり込んだ授業方法を取り入れている。グループワークの時間を作りディスカッションを行うことで、学生同士が学びを深める機会を提供するようにしている。授業の最後はグーグルクラスルームを使って振り返りを行い授業内容の理解を深め質問や疑問に答えるようにしている。 場合によっては遠隔授業をおこなうこともある。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『社会福祉（第3版）』李木明德 北大路書房 2023 年 教 材：新聞記事やデータ等の配布資料、ビデオ等視聴覚教材を活用する。 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017 年 授業内で、適宜参考文献を紹介する。			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 授業内で数回課題を設定し、レポート提出を求める		定期試験	60%
2. 受講記録としてのノートを提出		レポート	30%
3. 授業への取り組み姿勢・貢献度		授業への取り組み	10%
4. 定期試験			
履修上の注意事項や学習上の助言など			
日常的に、社会福祉関連の情報に留意すること。 定期試験は持ち込み不可で論述式の問題とする。			

科 目 名 社会福祉

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1 回	＜ガイダンス＞ 授業方針の確認および社会福祉関連分野と保育士資格との の連関について理解する	保育士資格についての理解
2 回	＜社会福祉の対象＞ （１） 貧困 福祉の原点である貧困について、 生活保護制度の概要・動向を知る	福祉の原点・貧困の本質 についての理解
3 回	（２） 障害 障害児・者福祉の概要、動向を知る 共生社会の実現と障害者施策	障害児・者福祉の動向、 問題点の理解
4 回	＜社会福祉行財政と実施機関＞ （１） 国の財政の現状、社会福祉の実施機関	社会福祉行財政につい ての理解
5 回	（２） 社会福祉施設について	社会福祉の実施機関に ついての理解
6 回	（３） 社会福祉の専門職について	社会福祉の専門職につ いての理解
7 回	＜社会福祉における相談援助＞ （１） 相談援助の理論、意義と機能を知る	相談援助の理解
8 回	（２） 実際の相談援助業務の事例から学ぶ	相談援助の理解
9 回	＜社会福祉の歴史＞ （１） 日本における社会福祉の歴史	社会福祉の歴史の理解
10 回	（２） 欧米における社会福祉の歴史	社会福祉の歴史の理解
11 回	＜社会福祉の動向と課題＞ （１） 少子高齢化社会における子育て支援	子育て支援についての理 解
12 回	（２） 在宅福祉・地域福祉の推進について	在宅福祉・地域福祉の理 解
13 回	（３） 北欧の福祉制度を学ぶ	北欧の福祉制度につい ての理解
14 回	＜まとめ＞ 授業内容の総括を行う	社会福祉観の確認
試験	定期試験	